

令和6年度 第1回恵那市男女共同参画プラン推進委員会 会議録(要旨)

日時：令和6年9月9日（月） 午後1時30分～

場所：恵那市役所 西庁舎3階 災害対策室 AB

1. 開会
 2. 委嘱書の公布（机上配布）
 3. 市長あいさつ
 4. 自己紹介
 5. 会長・副会長の選出
 6. 会長・副会長あいさつ
 7. 男女共同参画プランの概要及び推進委員会の役割について
 - ・第2次恵那市男女共同参画プラン 資料 No.1
 - ・男女共同参画プランの概要 他 資料 No.2
 8. 議事
 - (1) 男女共同参画プランの推進状況について
 - ・令和5年度 目標指標の達成状況 資料 No.3
 - (2) 第3次恵那市男女共同参画プラン（仮称）の策定について
 - ・策定の概要、スケジュール 資料 No.4
 - ・市民意識調査の実施について 資料 No.5
 9. その他
-

1. 開会

2. 委嘱書の公布（机上配布）

3. 市長あいさつ

■市長 委員には6、7年度の2か年にわたり意見を頂戴する。よろしくお願いします。
男女共同参画プランは、社会をどうつくっていくかが一番大きなテーマになると思う。朝出勤前に朝ドラを見るようにしている。まさに女性の地位が進んでいなかった頃のことを取り上げられている。その頃から見ると世の中は変わったという実感はあると思うが、全てが一緒になっているかというところもあると思う。本日お集まりの皆さんからさまざまな意見をいただき、情報を出してもらいたいということも含めて、一歩ずつ進めていきたい。次期プラン作成にも入っていく。よろしくお願いします。

（市長公務のため退席）

4. 自己紹介

5. 会長・副会長の選出

■事務局（進行） （事務局案）会長に、前任の坪井委員、副会長も前任の亀井委員
〔 「異議なし」の声あり 〕

■事務局（進行） 承認する人は拍手をお願いします。
〔 拍手多数 会長に坪井委員、副会長に亀井委員と決定 〕

6. 会長・副会長あいさつ

■会長 私は第1次男女共同参画プランの作成から関わっている。平成19年だった。初めは数字が独り歩きしていたが、行政はじめ市民、事業所、各種団体などいろいろなところの考え方が少しずつ前進して、意識が徐々に変化していると感じている。でも、資料3を見ると目標には達していないようだ。ただ、意識づくりのうち、仕事と家庭の男女平等の意識は上がっている。あとは目標値に近づいていない。そこが第1期、第2期の反省だ。今年度も第3次プラン作成に関わっていききたい。皆さんの意見を頂き多くの項目が少しでも目標値に近づくといい。

■副会長 新しい人が半数以上いるので違った意見が聞けることを楽しみにしている。忌憚のない意見を聞きたい。

7. 男女共同参画プランの概要及び推進委員会の役割について

- ・第2次恵那市男女共同参画プラン 資料 No.1
- ・男女共同参画プランの概要 他 資料 No.2

〔 事務局から資料に基づき説明 〕

8. 議事

(1) 男女共同参画プランの推進状況について

・令和5年度 目標指標の達成状況

資料 No.3

[事務局から資料に基づき説明]

■委員 第3次に関わるが。例えば、意識づくりという柱があるが、意識づくりというのは難しい。一年で人々の意識がガラッと変わることはない。何かの施策で変わるということではなく、例えばコロナが流行し、それによりリモートが増えて、その結果働き方改革に結びついたということなどが無い限り1年ごとのスパンで見るのは難しい。せいぜい5年だ。これで一喜一憂しなくていい。

第3次では、意識づくりで言えば、1は8割の人がいいと言えれば百点だと思う。百人全てということはありません。8割ぐらいでいい。1割は達成したから外していけばいい。5も、学校教育では男女平等はよくできていると思う。足りないところだけ補えばいい。第3次で重点的にするのは、7、8、9や職場、会社、地域の自治会にすると、全体が上がると思う。9つの指標で、下の方の10%台のものが今後重点化したいものだ。

■委員 男女優遇差に関して、私自身がやりたいことをやるという気持ちでやっている中で、活動が男女の差でできなかったと感じることがあまりなく、どちらかというとなら一緒にやることで、力のある男性が力の要ることをする、女性は細やかなことをするなど、男女の得意な分野で活動していることを今まで見ている。

家庭でも社会でも、家庭の背景や人生の背景が思い込みとして影響している部分はあると思う。例えば、家事をしているお父さんもいるし、女性でも自分から家庭に重きを置いてやっている人もあるので、数字として表すのは結構難しいと考える。

■委員 資料を見て驚いたのが、「ワークライフバランス」という言葉で、これについて今コラムを書いている。企業にはこの言葉がまだ浸透しておらず、男性でも育休が取りづらかったりする。どちらかを犠牲にしてどちらかを成り立たせるのではなく、仕事も家庭も充実させていくことが大事だということ。そのことを書いている。今日それが聞けて嬉しい。恵那市は育休を男性が取りにくいことや言い出せないことが言われている。反面、育休を取った人が、仕事以外の世界が広がったという声もある。子育て支援の施策は手厚いので、そこも理解が広がるといい。

あと、各学校に生理用品を配布していただいたのも、推進委員の地道な活動がある。父兄にとっても有り難い。生理用品すらそろえられない家庭の子もいるので。誰も気づかない部分に配慮してくれていることが嬉しい。教育委員の会議でも話題にしたが、元はここから来ているのだと思った。プランが一つずつ実現していくことがすばらしい。

■委員 意識づくりの1や3は、会社が基準になっている。私どもも会社の中で、女性管

理職比率を30年までに2割にしましょうとか、子供が小学校3年になるまで時短勤務が可能という制度があるので、会社などの組織では意識が浸透しやすい。それで数字が伸びている。5の学校教育は、人の目、社会の目があるので意識しやすい。それ以外の項目、家庭や地域は、目標数値があるわけではないので、地域で決めたりするとよいと感じた。

■委員 私自身、職場ではさほど差を大きく感じなくなってきた。だが、しきたり、社会通念において、お祭りの準備や片付けといったことで、女性負担が変わらずに大きいと感じる。女性が町に出ていく割合が多く、田舎での男女比のバランスが崩れていっているのを見て、誰がどこでどう変えると整っていくのか？と思っている。ある程度までは変わる部分と変わらない部分が多い。

■委員 意識づくりで、資料3の2枚目の右下、当初と現状のグラフを見ると、3の職場では、いろいろな制度、育児休暇、介護休暇も取りやすくなっており、そういうことが数値に現れてきていると思う。一方で、6の法律や制度上から下は良くなっていない。かえって良くない答えになっているところもある。「法律や制度上」というところは、市としてどう取り組んだらいいか、悩ましいところではある。「社会通念、習慣、しきたり」は、少しでも地域で何かできるといいと思っている。「政治の場、社会全体」というところは、恵那市だけで取り組むのは難しいかもしれないが、少しでもできることがあるといい。

■委員 意識づくり。よくある話で、結婚した男性に向かって「家事手伝っている？」という言葉が掛けることが結構ある。「家事を手伝う」ということは「自分の仕事じゃないけど手を貸してあげる」ということで、根本的に自分の仕事ではないという意識がある。本当に分かち合うなら、役割分担で、手が空いている方がやるとか自主的にやるとか気づいたらやるという意識がないと、家庭内で男女平等はない。お父さんが朝御飯、晩御飯を作ってもいいし、洗濯してもいい。仕事で疲れているからゴロゴロしているというのはおかしい話だ。男女格差、平等を考えると、まず一番は家庭環境が根本。それを変えるのは家庭教育や学校教育の場だと思う。男性でカップラーメンしか作れない、御飯も炊けないということでは家事を分かち合うことはできない。家庭内で分かち合うことが大事。意識づくりの根本に古い考え方があり、そこに捉われていると感じる。

職場では、数字として上から命令が来ればそうしましょうということになるが、うちの職場は、女性管理職もいるが、勤務時間が長い。仕事量が多い。これはおかしい。中間管理職、管理職は勤務時間がめちゃくちゃ長い。そうすると、今の若い子は、出世を望まなくなっている傾向が少しある。そもそもワークライフバランスを考えたとき、働きたい人はバリバリ働けばいいが、家庭生活がある、子育て中のところでは、ノー残業で毎日帰れるような形で仕事が進んでいかないと、数字ばかりの管理職登用になってしまい、幸せになれない。本人が望むならいいが、そうでないところもある。

■委員 回答率が54.2%で無作為に市民を抽出。去年この会議で、回答者が年配の人が多

く、年配の人の意見が多いということがあった。そうやって見るとちゃんと測れていないと思う。意識づくりの 7、8、9、社会や身の回りは指標がつくりにくく、目に見えて結果が分かりにくいのに、目標は全部 50%で、結局 10%台しか達成できていない。回答自体が偏っている気がする。若い人から全員の意見が聞ける目標値もやっていけるといい。

■委員 若者が出世を望まないことについて、私は今年 33 歳になるが、友達に出世したいか聞くと、「平社員がいい。責任を持ちたくない」という。今は若い人が転職しやすく終身雇用にならないことが多い。ヘッドハンティングされて出ていくことがある。男女間の賃金差は、男性 100 で、女性が全国平均 79.9 らしい。この差をどう埋めるか。恵那市だけの問題ではない。今日も市役所の総務課に、事務補助の会計年度職員の時給はいくらか聞いたら、980 円余とのこと。10 月 1 日から 1001 円に最低賃金が上がる。それより安い。来月から 1001 円にすると。やはり 1500 円ぐらいもらわないと女性も働けないし、どうしても男性に仕事が偏ってしまう。

■副会長 本人の意識の問題であり、例えばうちなら、私と夫がいて、2 人とも高齢者だが、家事を分担というのではなく、できることはできる人がやるということに自然になった。私が体調を崩すと夫がやる家事がだんだん増え、食べた後の片付けは夫がやることになっている。去年から翌日の米を研ぐこともやっている。それは本人のためにもなる。やればできる。そのときどきにやれる人がやることをやるように、助け合ってきている。そういう家庭の基本が、最終的には社会に繋がっていくと思う。

■議長 4 と 8 について気になることがある。13 地域の地域自治区の会長が、私は 4 期 8 年間務めたが、そのときだけ女性が 1 人だった。あとは全部男性。退任するとき、どこの自治区でもいいので、ぜひ女性の自治区会長を選んでくださいと言ったが、どこも男性しか出てこない。これは男性だけの責任ではない。女性にやってくれと言うと「私なんか」と必ず言う。「やらせていただきます」という答えが続いていくといい。女性が男性と対等にまちを担っていけるということになると思う。

8「政治の場」。今年は 4 年に 1 度の市長選、市議選がある。自民党も立憲民主党も女性の総裁、代表に名を挙げられる人がある。女性の市議をもう少し増やしたい。

新鮮な意見がたくさん出たので事務局も次回に繋げてほしい。

(2) 第 3 次恵那市男女共同参画プラン（仮称）の策定について

- ・策定の概要、スケジュール 資料 No.4
- ・市民意識調査の実施について 資料 No.5

[事務局から資料に基づき説明]

■議長（会長） 無差別というのが大事。高齢者に偏ったりしないように。年代別で抽出

した方がいいと思う。

■事務局 年代は、市民意識調査も、送付は分けて送っている。返ってくる率が偏る。若い人が返してくれない。若い人の回答率を上げる努力は工夫が要ると思う。

■議長（会長） 回答率を上げて多くの人の意見をもらえるといい。

■委員 総合計画との整合性と言われたが、総合計画は20年。基本計画は4年。総合計画と個別の専門分野の計画があり、総合計画は大きなものでいいが、個別の計画も漠然としておりいつまでに何をやるかをほとんど挙げていない。なるべく到達目標、KPIを上げて、男女共同参画プランは具体的なものにしていくのがいい。もう決めてあるのか。

この前、総合計画の進捗状況の会議に出席した。第2次の計画の5ページに、「特に若者の市外転出数の増加が少子化に拍車をかけており、若い世代の流入・定着を図り人口減少に歯止めをかけることが、恵那市における喫緊の課題」とある。夢のようなものを漠然と挙げるのではなく、良いと思ったのは「若い世代の流入・定着を図る」という課題に向けて明快な目標を作っており、成果も上がってきた。ここにあるような「あらゆる分野で活躍できる社会づくり」のようなスローガンの美辞麗句を掲げても専門分野の活動は進まないと思う。専門的に数値目標を決めてやるべきだ。

■議長 今度のプランは何年か。総合計画は20年後の目標を書くことになっているが。

■事務局 今までは10年のプランとなっているが、これから検討する案として12年。委員の皆さんで4年単位にしようとか20年ごとにしようとか、意見があってもいい。12年というのは案。

あと、男女共同参画も、総合計画と同じで、経済の計画、建設、福祉、教育の計画、全て含む。総合計画に近い計画になる。ただ、事業をいくつか持っている。小中学校に生理用品を置くとか。そういう事業を載せるということもいいと思う。ただ、総合計画に限りなく近い感じになる。

■委員 市民意識調査アンケートについて。若い世代の回答率が悪いということだが、集計、分析の段階で年代別の答えの傾向を見て、若い世代の回答も反映させていけるといい。集計のところや、こういう場で年代別の傾向を教えていただけると有り難い。

■委員 若い世代の声を拾うにはどうしたらいいのか。18歳だと、例えば高校や、成人式などで聞くとか、新しい聞き方をしないと、変わらないと思う。男女の偏り、世代の偏りがなくなるように、考える必要がある。

■議長 回収率を上げる方法を考えないといけない。

■委員 移住してきて思ったのは、自治組織がしっかりしていること。驚いた。こういう意識調査を自治会組織に一度落とし、組織から年代別にとってもらうのはだめか。自治会長がまとめてくれる。

■議長 どう思うか

- 委員 やめた方がいい。若い人の声が必要だというのは分かるが
- 事務局 ウェブ回答に変えたり、設問を簡単にしたりという努力はする。過去に成人式で若い人の意見を聞けるかと思い、数年前職員が成人式に出向いてアンケートをしたがほとんど回答がない。2年ぐらいやったが、若い子は面倒くさがる。簡単なものでもやってくれないのをひしひしと感じている。
- 委員 インセンティブは出せないか。LINE スタンプを配るなど
- 事務局 事務局でも、回答者何名かに抽選でアマゾンのギフトカードを配ろうとか意見はある。
- 委員 LINE スタンプの配布もいいと思う。
- 委員 私は送られてきたら返すが、みんな仕事があり、アンケートが届いていても返さない人が多いと思う。まちにどれだけ愛着を持てるかだ。私も外に出てUターンしてきたが、恵那が好きだから、戻る場所があり家族がいて戻り、市の役に立ちたいと思って公募でここに出てきた。今の若い子たちが恵那市をどれだけ好きかが回答率に反映されてくると思う。
- 委員 3年前にこの男女参画プランの特集が広報であった。すごく反響があった。地元の家だったということもあるが。そういう啓発をしてもらえると、先輩の夫婦の特集でもいいので、またそういう機会があればやってほしい。
- 委員 PRも大事なのでしていただきたい。

長時間ありがとうございました。これで終了する。

[閉 会]